

あぜみち

「音の風景・百選」に入っている無形文化財「チャグチャグ馬子」が今年もさわやかな青空の下、鈴の音をチャグチャグと響かせて行進していきました。

人口五万人を超えた我が滝沢村は、県庁所在地、盛岡市に隣接していることもあり、ベッドタウン化し、農村風景も様変わりしつつあります。それに伴って我家の農業形態も大きく変わりました。養豚・水稻・果樹を組み合わせ、農業で生活できることに誇りと生きがいを求めて三〇年経過し、五年前、成長した子供からの提案でりんごを中心にグリーン・ツーリズムを取り入れた新しい方向に向けて出発したところです。

今年の五月、地域の人達と消費者との交流を図るため野外コンサートを開催しました。普段静かなりんご園に五百人余りの人が訪れ、満開のりんごの花の下、音楽を楽しみ、地域の農産物を介してそちこちで会話もはまりました。今、農業に対する関心が様々な形で高まっていると感じました。昨年、「柳沢いものまるごとネットワーク」といっつ会を立ち上げ、地域を楽しくする人の輪を拡げています。三〇代の若い人達を中心に地域の特産物を研究するグループも動き出しました。そんな人達が集まってこれから地域

通貨の勉強会をもち、地域に拡げていく方向を見い出そうとしているところです。農業は取組み方によって、様々な方向に展開できる楽しい職業だと思っています。一万坪のりんご園の整備をした時から、私の発想はどんどん開いていきました。オーナー制、車イスの方も迎える体験学習の場としての工房、設備等々。

私の農業人生を締めくくるにふさわしい行動をこのりんご園で展開し、沢山の人のふれあいを喜びびとしていきたいと思っています。りんご園にやさしい風が吹き、花がゆれ、紅いりんごが実る。沢山の人が訪れ、公園の役割も果たすような場所として私は私のりんご園を位置付けたいと考えています。

(若手県滝沢村 上野かなえ 農業)

E mail : u.ringo@fdion.ne.jp

光センサー選果機「元年」

真穴地区には全国に自信を持って、誇れるものが二つある。

その一 女の子の初節句。健やかな成長を願う座敷雛の風習で、二百年もの間続けられている。座敷いっばいに繰り広げられるお雛様とミニ庭園は、平安時代の宮中を再現したかのような夢の世界。何ヶ月も前からこの日のために準備をするその豪華さと完成の翌日には潔く取り壊してしまう贅沢さ。四月三日には全国からの観光客で賑わう。その二 栄えある「天皇賞」の受賞だ。

当地区へ柑橘が導入されて、今年で百十一年目を迎える。この間、常にトップの座を

堅持している。昭和三十九年には日本農業祭において、最高峰の「天皇杯」に輝いた。作れば売れる昭和の三十年代、過剰の四十年代、調整の五十年代、自由化の六十年代、そしてそして現在。昨年は、需給調整が個人割当てという生産調整を実施した。天候にも恵まれ高品質のミカンに仕上がったにもかかわらず、価格は史上最低の水準にまで落ち込んだ。農産物は「適地適作」が大原則である。それを全国一律の調整では、あまりにも問題がありすぎる。当地区の生産者は、ミカン一本に命を懸けているプロ集団だけに矛盾を感じずにいられない。

真穴においては、平成十四年度に、光センサー選果機が導入される。ミカンだけで見ると、全国の普及率は八十%に達しているが、売上の伸びた産地がない(落葉果樹も含む)。「品質のパラッキは少なくなるが、味の良くなる機械ではない。不味いミカン(足きり)の販売が問題なのである。産地の宣伝にはなるが、売上増には繋がらない。真穴においては、平成十四年度は、光センサー選果機に対応するための生産対策(いかに足切りミカンを少なくするか)を重点政策に掲げた。自然条件が相手だけに、思い通りには行かないが、選果機が変わる、消費者も変わる、生産を変えよう、を合言葉に生き残りをかけて頑張っていきたい。

(愛媛県八幡浜市 柳澤玉久)

J A にしうわ 真穴共選長)